

## 編集後記

2018年4月半ばのある日、山岡道男先生の研究室に伺った。この日、初めて国際文献社の高田恭仁子様にもお目にかかった。この退職記念号で私は、山岡先生が責任者をされていた太平洋問題調査会（IPR）研究会などのメンバーからの原稿と、山岡先生のご友人からの原稿のとりまとめをお手伝いさせていただくことになった。IPR研究会などで私は10年以上、山岡先生にはいろいろとご指導と温かい励ましを頂戴して本当にお世話になっていた。多少時間の融通ができるので、多くのお忙しい先生方に代わって、お手伝いすることになった次第である。

以来、山岡先生や浅野忠克先生、高田様とご相談しながら作業を進めてきた。掲載順序もご相談し、私が担当する前半部分では、まずIPR研究部会関連の研究者、次いでご友人グループとなった。山岡先生のご友人グループといっても、ポール・フーパー先生や片桐庸夫先生をはじめ、IPR研究の第一人者として、かつ、山岡先生の生涯のご親友となられた先生方もいらっしゃる。山岡先生のご希望でIPRグループではなく、ご友人グループに入らせていただくことになった。フーパー先生や片桐先生のご玉稿が本誌の中盤に掲載されているのはそのためである。ほかにも執筆者の先生方に失礼やご迷惑をおかけすることもあったが、山岡先生に免じてご寛容いただければ幸いである。

浅学で編集経験も少ない私には不慣れな作業もあり、行き届かぬことも多々あったと思う。だが、海外のお目にかかったことのない先生方へお声掛けしたり、研究部会の旧交を温める機会をいただいたり、私にとって未知の領域の先生方のご玉稿を拝読させていただいたり、とても貴重な充実した時間をいただいたことに心から感謝を申し上げたい。

こうして集まった本誌全体の原稿は、山岡先生の研究領域の広さと緻密なご研究とお仲間のご縁の深さの賜物で、山岡先生のお人柄を何よりも物語っている。本誌に寄稿して下さった執筆者全員の先生方と一緒に、山岡先生のこれからのご健康とますますのご活躍を心からお祈り申し上げたい。

飯森明子

早稲田大学アジア太平洋研究センター  
特別センター員